

# 就職をテーマにした上級コースでの実践活動

## ー日本学対象の日本語コースにおいてー

半田 佳奈子（ボーフム・ルール大学）

### 【要旨】

ドイツ、ボーフム・ルール大学日本語コースでは、日本に関連する学科<sup>1</sup>（以下、日本学とする）を専攻する学生を対象に言語運用を促す実践活動の一環として、上級コースで就職をテーマにしたディスカッションと作文、そして、面接のシュミレーションを導入した。本稿では、ドイツの日本学対象の日本語コースという学習環境に焦点をあて、そこに内在する問題について考え、その対策としての実践活動について述べる。

### 1. 実践活動の背景

#### 1-1. 日本学対象の日本語コースにおける学習目標

まず最初に、実践活動が行われた背景として、ドイツで行われている日本語教育、特に日本学対象の日本語コースについて、学習目標という観点から説明する。

近年、日本語教育の文脈において学習目標について議論する際、ヨーロッパでは「ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）」<sup>2</sup>に言及されることが多い。CEFRの教育観では、外国語学習において目指すものは「状況に沿って適切に言語を使用し、効果的なコミュニケーションを行うこと」、つまり、社会言語能力（基金2005）の習得であり、そこでは、コミュニケーション能力の向上が重視される。

ドイツでは、主に中等教育機関と一般成人対象の日本語コースにおいて、CEFRの教育観に基づいたコース運営<sup>3</sup>が見られる。また、CEFRでは、外国語運用能力をレベル別に記述しているが、中等教育では、州ごとに日本語を含む外国語学習の到達目標レベルをCEFRのレベルによって統一している（基金2005）。一方、大学での日本語教育においては州や国が定める統一基準はない（基金2014）。また、大学での日本語教育は大きく二つの種類に分けることができ、それらは学習目標の設定において事情が異なる。その二つとは、全学対象の一般教養の一部として提供される日本語コースと日本学専攻の学生を対象にしたコースである。全学対象のコースでは、CEFRのレベルに基づいたコース設定が増えており、また、UNICert<sup>4</sup>という外国語能力認定システムを用いて、修了者のレベル認定をしている日本語コースもあって（基金2014）、到達目標レベルの可視化が進んでいる。一方、日本学対象の日本語コースでは、各大学（学科）で独自の評価基準を採用しており、到達目標レベルはそれ

<sup>1</sup>ボーフム・ルール大学では東アジア学部には属する日本語言語学、日本歴史学、東アジア政治経済学を専攻する学生が日本語を必修科目として履修している。本稿では便宜上、これらの学科をまとめて日本学と称する。

<sup>2</sup>CEFRの言語教育観の詳細については「ヨーロッパにおける日本語教育と Common European Framework of Reference for Languages」（国際交流基金2005）を参照されたい。

<sup>3</sup>CEFRのレベルを用いたコースレベルの記述やCEFRの教育観に基づいた教材の作成等が見られる。

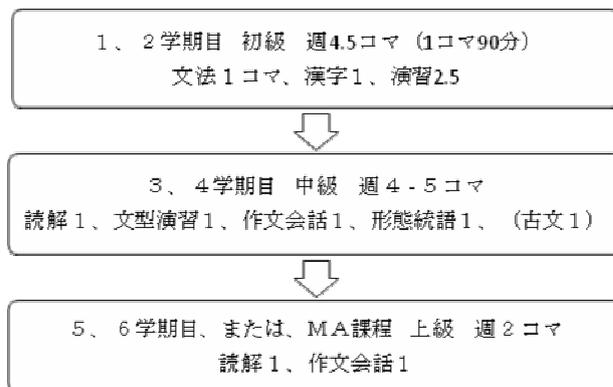
<sup>4</sup>UNICertはCEFRとの対応付けがされており、両者間でのレベル比較が可能になっている。

ぞれの大学（学科）によって異なる（基金2014）<sup>5</sup>。

では、日本学対象コースの特徴は何かというと、社会生活全般において必要とされる言語運用能力に加えて、研究のための日本語能力の習得も求められるということであろう。研究において、まず必要となるのは、専門文献の理解と研究資料の収集であり、また、それらを可能にする語彙や文型といった言語知識である。通常、日本学対象のコースでは初級レベルで社会生活全般に必要な項目を学習し、中級、上級と上がっていくにつれて、研究を念頭に置いた学習項目を導入していくという形が多いと思われる。

筆者が勤務するボーフム・ルール大学の日本学対象の日本語コースにおいても、学術的な研究に対応できる日本語のレベルを到達目標レベルとし、語彙、文型といった言語知識の学習を重視しながら、その理解にもとづいた応用練習（会話、読解、作文）を行っている（日本語コースの授業時間数は図1を参照）。現行カリキュラムでは、初級コースでまったくの日本語初心者であった学生も、3年次の上級コースになると、新聞、小説、専門文献の読解と翻訳、また、短いものではあるが、学術的な内容の発表とレポート執筆までを行う。現カリキュラムの問題を挙げると、学生は卒業までに多くの言語知識を獲得するが、その一方で、せっかく多くの知識を持っていても、それらを現実的な場面でなかなか運用することができないという点である。現代では、インターネットなどを通じて日常的に日本語と接する機会が増えているとはいえ、ルール大学では、授業外で日本語を使う機会を持たないという学生もまだ多くいる。実際、日本語運用力の不足を自覚し、それを問題視している学生も多い。この問題点については第1. 3節で詳述する。

図1 ルール大学日本語コース授業時間



## 1-2. 学生の日本語学習における目標

### 1-2-1. 先行研究

では、日本学の学生はどのような目標をもって日本語を学習しているのだろうか。日本語学習の学習動機に関しては多くの研究がなされているが<sup>6</sup>、その中でドイツの大学生を対象に学習動機の調査を行ったものに真嶋（2002）があり、学習目的を調べたものに国際交流基金の国別の日本語学習に関する調査（2011）があ

る。この2つの調査結果によると、ドイツ人大学生には、「日本語そのものや日本文化に対する興味」を持って日本語学習を始める人、また、日本語を「コミュニケーション」や「将来の就職」という具体的な目標のために学習している人が多いと言える。これらの結果からはドイツの大学生は「実利志向（基金2011）」が高く、「道具として（真嶋2002）」日本語を使えるようになることを重視して

<sup>5</sup>昨今では、到達目標にCEFRのレベルを使用する日本学も増えつつある。奥村（2010）によると、ボン大学日本学科日本語コースではCEFRの教育観に基づいたシラバス、タスク、試験作成等のコース運営を行っている。

<sup>6</sup>留学生の日本語学習動機の研究についてまとめたものに高橋・平山（2014）がある。

いることがうかがえる。尚、真嶋（2002）の調査は初級レベルの日本学の学生を対象としており、基金の調査では日本学以外の学生も対象となっている。そこで、筆者はルール大学の日本学に在籍する中上級コースの学習者（大学2年生以上）に焦点を当て、アンケート調査を行った。

### 1-2-2. ルール大学での調査

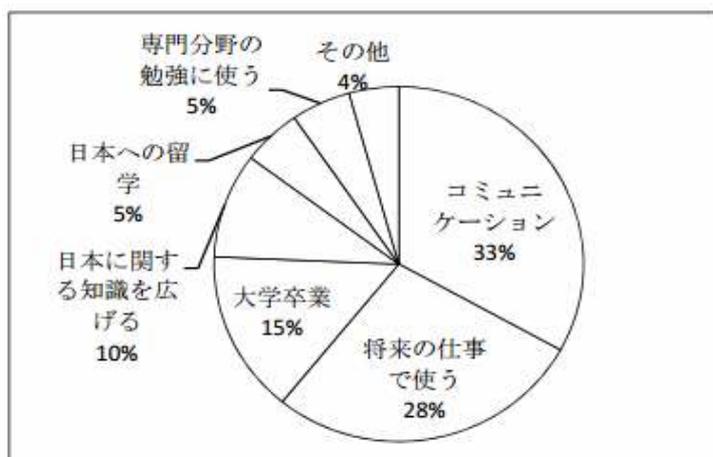
アンケートの参加者は、ボーフム・ルール大学のBAまたはMA課程の主専攻として日本語言語学、日本歴史学、東アジア政治経済学のいずれかを専攻し、その専攻の必修科目として日本語中級、または、上級コースを履修するものである。表1に各学科のBA・MA課程の内容とそこで履修する日本語コースについてまとめた。アンケートでは、選択肢の中から2つの答えを選んでもらった。

結果は図2のようになった。日本語学習の目標に関して学科間での大きな違いはなく、全学科の総数で見ると、「日本語でコミュニケーションができるようになること」が第1位で33%、「将来の仕事で使うこと」が第2位で28%、次が「大学を卒業すること」で15%となった。また、「日本に関する知識を広げる」は10%、「日本への留学」「専門分野の勉強に使う」は5%にとどまった。この結果からは、先行研究で見られた「実利志向」は、ルール大学の中上級の学生にもあてはまるということがわかった。

表1 ルール大学、各学科のBA・MA課程の内容と履修する日本語コース

	日本語言語学	日本歴史学	東アジア政治経済学
BA 課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3年</li> <li>・ 2学科専攻</li> <li>・ 日本語1-6と古文が必修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3年</li> <li>・ 2学科専攻</li> <li>・ 日本語1-5と古文が必修</li> <li>・ 日本語6選択可</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3年</li> <li>・ 1学科専攻</li> <li>・ 日本語1-4が必修</li> </ul>
MA 課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年</li> <li>・ 必修コースなし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年</li> <li>・ 必修コースなし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年</li> <li>・ 日本語5、6が選択可</li> </ul>

図2 日本語学習の目標



### 1-3. 問題の所在と教師の課題

次に、アンケートの結果を参考にしながら、日本学対象の日本語コースに内在する問題と、その問題における教師の課題について考えていきたい。アンケート結果を見る限り、研究を念頭に置く学部・学科と学生との間で日本語学習において目指しているものにギャップがあるように見えるが、筆者はこれにはドイツの大学のBA・MA制度が少なからず影響していると考えている。この理由を説明するために、BA・MA制度について少し述べておきたい。ドイツでは1999/2000年冬学期以降、ボローニャ宣言に基づいて、他国の大学と

度が多からず影響していると考えている。この理由を説明するために、BA・MA制度について少し述べておきたい。ドイツでは1999/2000年冬学期以降、ボローニャ宣言に基づいて、他国の大学と

学位システムを統一する目的で、BA・MA制度が導入された（基金2005）<sup>7</sup>。それ以前はドイツの日本学においては、BAの学位がなく、日本学での修了学位はマギスター（修士）であった。マギスター制度の下では、学生は卒業のために日本に関するテーマについて深く研究し、また、修士論文を書くわけであるから、研究遂行が可能な日本語のレベルが求められ、また、読解と翻訳の能力が重視される傾向があった。しかしながら、現状はかなり変わってきている。ボーフム・ルール大学の2015年6月および11月の統計データを見ると、ルール大学の日本学でMA課程に在籍する学生数はBA課程の学生数の1割前後である<sup>8</sup>。このデータからはルール大学の日本学の学生の多くはBA課程終了後、MA課程に進まず卒業しているということが示唆されている。BA課程は3年で、多くの学生は、その後、就職するであろうから、学生が実利を優先するという傾向は自然な成り行きとも言えるだろう。その一方で、BA課程においても日本学の専門についての卒業試験があり、そのための研究は必須である。このような背景の中、筆者は、現状での第一の問題は学部・学科の期待と学生の期待という双方がお互いに補完しあえるような学習活動が不足していることではないかと考えている。言い換えれば、学生が日本学という環境の中で蓄積した言語知識を現実的な目的を達成するために使うための機会が不足しているということである。それが、第1. 1節でも述べた、日本語運用力の不足という問題につながっている。言語運用力を伸ばすためには学習言語が使われている国に滞在することが最善の方法であろうが、諸事情から日本留学ができずに卒業する学生もいる。

このような状況の中、教師の課題は、特に日々の生活で日本語母語話者との接触が限られている海外では、日本語運用のための学習活動を積極的に導入し、その学習を支援していくことだと考えている。そして、教師による働きかけは教室内の学習に限らず、教室外の学習においても非常に重要になる。教室外学習の例としてタンデム学習を紹介したい。タンデムとは言語交換による相互学習のことであり、ボーフム・ルール大学では、自己学習としてのタンデム学習を奨励している。また、教師の働きかけとして、タンデムのパートナーを見つけるための支援をいろいろな形で行っている<sup>9</sup>。このタンデム学習に関して、筆者は日本学の学生を対象にアンケートを行った。その結果、90%以上の学生がタンデムに興味を持っているが、そのうちの約半数がタンデムをしたことがなく、その一番の理由がパートナーを見つけるのが難しいということであった（42%）。そして、タンデム学習の経験者は、その70%が教師の働きかけでパートナーを見つけていることが明らかになった（Handa-Graf 2015）。この結果が示唆するように、教室外学習においても日本語運用のための活動を支援することの意義は大きい。次章では教室内で行われた活動の例として、上級コースで行った実践活動について詳しく述べていきたい。

## 2. 実践活動

### 2-1. 実践活動の内容

<sup>7</sup>BA・MA制度の導入時期は各大学、または、各学部によって異なる。

<sup>8</sup>数値は「Fakultät für Ostasienwissenschaften:tagesaktueller Bearbeitungsstand der Studierendenzahlen」の統計を基に計算。

<sup>9</sup>対面タンデムのパートナーを見つけるための日本人との交流会、および、交換提携校とのEタンデム・プログラム（メールやスカイプを利用したタンデム）を企画、運営している。

筆者は、2014年夏学期に「上級作文と会話」（6学期）というコースの中で「就職活動」をテーマにした活動を行った。本活動への参加学生数は17名、使用コマ数は4コマ（1コマ90分）であった。当該コースでは、2006年度から「就職活動」をテーマにした、ディスカッションと作文の授業を行っていたが、2014年度にはこれに面接のシュミレーションを加えた。また、面接シュミレーションの結果をコース評価の10%とした。「就職活動」をテーマとして選んだ理由は、アンケートの回答にも見られるように、「就職」は学生が関心を持つテーマであるからである。また、本活動からは以下のような利点も期待される。

- 運用が難しい中上級レベルの語彙や敬語が使用できる。
- 面接で語る内容は仕事の応募書類、研修での自己紹介などへの応用が期待できる。
- これまでの学習と将来像についての内省ができる。

3点目の「これまでの学習と将来像についての内省」について補足すると、筆者は毎年、中級（3学期）のコースで「日本語の学習」というテーマで日本語学習の目標について作文を書かせるのだが、そこでは、将来日本語で何がしたいのか、ということについて具体的に語れる学生は少ない。もちろん3学期の段階では、具体的な目標を語れるほどの日本語表現力がまだついていないということも考えられる。そこで、6学期は大学での日本語学習における最後の学期ということもあり、この活動を自身の大学での学習や将来像について内省する機会にしてほしいという思いがあった。尚、学生に対しては、活動目標を次のように提示した。

1. 日本の就職活動について情報を得、データを読み取る。
2. 自国の就職活動と比較し、それぞれの長所、短所について考える。
3. 面接で使われている表現を学ぶ。
4. 面接の準備を通して、自身のことについて内省をし、日本語で表現する。
5. 面接で適切なスピーチレベルを使用して話す。

## 2-2. 実践活動の流れ

実践活動の流れを表2に示す。

表2 実践活動の流れ

	活動内容
1コマ目	「就職活動」についての導入： 1. 日本の就職活動のスケジュール、就活に関する用語を知る。 2. 就活に関するデータを読む。
2コマ目	グループワーク： 1. 日本の就活と自国の就活を比較する。 2. グループワークの結果を発表する。
宿題1	作文「就職活動」：1コマ目と2コマ目の内容に基づき、作文を書く。
3コマ目	面接の導入と準備： 1. You Tube で日本の大学生の面接を見た後、意見交換。 2. 面接の質問をエントリーシートで提示し、表現を学習する。
宿題2	エントリーシート作成：3コマ目の学習内容に基づいて、エントリーシートを作成し、提出。

	教師が添削し、フィードバックをあたえる。
4 コマ目	グループワーク：教師が添削したエントリーシートを基に、グループ内で面接シュミレーションの練習を行う。 クラスディスカッション：どのグループメンバーの面接がよかったか、また、どこがよかったのかを発表し、クラス全体で意見交換。
面接シュミレーション	教師が面接官となり、学生3人とグループ面接を行う。

1 コマ目と2 コマ目ではいくつかのデータ<sup>10</sup>を使用しながら、日本の就職活動についての情報を得、また、自国との就職活動と比べることで、学生の興味を引きだし、異文化理解を深めることを目指した。また、そこで、就職活動で使われる特別な表現や、データ（グラフ）を説明するための表現を確認した。また、1 コマ目と2 コマ目で学習した内容の理解を深めるため、宿題1の作文を書いてもらった。作文のテーマはデータを使用しながら日独の就職活動を説明する、または、比較するというものであった。3 コマ目の面接の導入では、実際の大学生の面接の様子を動画で視聴し、感じたことを自由に話してもらった。その後、日本人の大学生が実際に書いたエントリーシートの記載内容を読み練習として用い（本稿末資料を参照）、エントリーシートで扱われる質問事項、表現、そして、スピーチレベル等を確認した。尚、エントリーシートには、インターネットでリサーチした上で頻出度の高い以下の4つの質問を挙げた。

1. 大学で研究しているテーマ、および、その内容について教えてください。
2. 大学時代に力を入れて取り組んだことについて教えてください。
3. あなたは自分のことをどんな人だと思いますか。また、周りの人からどんな人だと言われますか。
4. あなたがやりたい仕事について教えてください。

4 コマ目のグループワークでは、添削済みのエントリーシートの内容を基に、面接シュミレーションの練習を行ったが、その際、他のグループメンバーのエントリーシートの内容について質問をするように指示した。そして、その後のクラスディスカッションではグループメンバーの面接について、よかったところをコメントをしてもらった。その際、話し合いが活発になるようにドイツ語での発言も許可した。

### 2-3. 実践活動の考察

続いて実践活動について考察する。まずは、本活動を行った「上級作文と会話コース」に対する学生からの評価を見てみたい。ボーフム・ルール大学では学生アンケートをもとに毎学期、各コースの評価点を出している。このアンケートによると、当該コースは異なる項目で1点-1.5点となり（1から5のスケールで1が最高点）、この結果からは、学生は本活動を含めたコース全体にほぼ満足していたことがわかった。

次に経過観察から本実践活動を考察したい。まず、1 コマ目と2 コマ目では、日本事情についての学習や自国との比較の中で意見述べやディスカッションが活発に行われた。このことから「就職活

<sup>10</sup>扱ったデータは「日本の就職活動のスケジュール」「企業が選考するときに重視する要素」「就職したい企業ランキング」「就職率の推移」「インターンシップの実施状況」。

動」というテーマは本活動の参加者にとって、適切なテーマであったということが言えるだろう。4コマ目のグループワークからは、他メンバーとエントリーシートの内容について話したことがその後の活動に際するよい刺激となったことがうかがわれる。その理由として、ほとんどの参加者において最終の面接シュミレーションの内容がエントリーシートの内容より大きく改善されていたことが挙げられる。そして、面接シュミレーションは非常によく準備され、全参加者が、表現に間違いこそあれ、適切なスピーチレベルを考慮した上で、はっきりとした口調で話すことができた。

一方、本活動の課題であった日本語の運用であるが、エントリーシートの記載に見られた運用上の問題は少なくなかったが、学生にとって大事なことは、まず、自身の問題を意識化することである。そのためには学生自身が伝えたい内容、本活動においてはエントリーシートであるが、その中で運用上の例を示し、それを面接という目的を達成するために学生が実際に使用するというサイクルを作ることが大事だと思われる。次節で実際に現れた運用上の問題とその添削例を示す。

## 2-4. エントリーシートの記載例

例1、例2は学生が書いたエントリーシートとそれを教師が添削したものである。

### 例1：「大学での研究テーマ」

(原文) 私はボーフム大学で東アジアの経済について勉強しています。今、卒業論文のテーマは中国・日本・韓国・三国自由貿易協定について研究しています。現在世界で全体の国が経済の問題があり、①だから提携したら、②手伝えます。中国、日本と韓国が経済のも、政府のも関係が改めたら、三国にとって良いことそうです。しかし、現在中国、日本と韓国の商議がゆっくり進んでおり、政治的と歴史の③喧嘩はまた大変です。

(添削後) 私はボーフム大学で東アジアの経済について勉強しています。卒業論文のテーマは中国・日本・韓国の三国自由貿易協定についてです。現在世界で全体の国が経済の問題があり、①そのため提携したら、②おたがいに協力できます。中国、日本、韓国が経済と政治の関係を改めたら、三国にとって良いことだと思います。しかし、現在中国、日本と韓国の商議はゆっくり進んでおり、政治的、歴史的な③問題はまだ大変です。

### 例2：「将来やりたい仕事」

(原文) 将来に町のコンサルティング企業で働きたいです。町の地理学が④得意で、都市をコンサルティングする会社でインターンシップしましたので、今一番⑤ほしい仕事です。しかし、日本の都市を一番面白いと思うので、その仕事に、もちろん日本学の勉強のこと活かすことができます。

(添削後) 将来は町のコンサルティング企業で働きたいです。町の地理学が④専門で、都市をコンサルティングする会社でインターンシップしましたので、今一番⑤希望する仕事です。しかし、日本の都市を一番面白いと思うので、その仕事に、もちろん日本学の勉強を活かすことができます。

下線部①-⑤(原文)と①'-⑤'(添削後)を比較する。添削後の①'「そのため」、②'「協力する」、④'「専門」、⑤'「希望する」は、既習の語彙で本活動以前での頻出度も高い。しかしながら、これらの代わりに原文では①「だから」、②「手伝う」、④「得意」⑤「ほしい」といった初級レベルの語彙

が使用されている。ただし、④の「得意」に関しては、本活動中の表現練習の中で多用したことから、その使用につながったとも考えられる。次に、原文の③「喧嘩」であるが、これはドイツ語から和訳したものと推測される。

### 3. まとめと今後の課題

本稿では日本学対象の日本語コースという学習環境のなかでデザインした実践活動を紹介した。本活動の目的は日本語との接触が少ない海外で言語知識を運用する機会を与えることであった。また、活動内容を考える際に日本学の学生に見合った日本語使用のコンテキストを考慮した。ここで活動の意義を確認すると、学生が興味を持つ現実的なコンテキストで、かつ、具体的な言語使用の目的を持つことによって、学習動機を高めるということ、そして、自身が伝えたい内容を自身の言葉で表現し、また、それを直していくという作業を繰り返すことによって、知識としての言葉を少しずつ運用できる言葉に変えていくということであろう。本活動は、参加者の活動中の積極的な態度や面接の成果などから見て、当該参加者のレベルにおいて適当であったと思われる。

現在、ポーフム・ルール大学では本活動以外にも、中級コースでは日本人ゲストを招いてのドイツ文化についての発表会、また、教室外の活動では交換提携校とのEタンデムや夏休みを利用した交流会などを行い、学生からは評価を得ている。一方、課題は時間の制約である。特に教室内で行う活動においては、使用できる時間数が限られてくるため、今後は教室外で行う活動のためのサポートが重要となるであろう。しかしながら、学生の中には、取得単位数が多いBA課程の必修科目をこなすだけで精一杯という人や生活費のためにアルバイトをしなければならない人など、教室外の活動のための時間が取れないという人も少なくない。また、昨今、教師のワークロードも、学生数の大幅な増加とともに、増える一方である。このような苦しい状況ではあるが、日本学の学生にとって効果的な活動を引き続き、探っていきたいと思っている。また、それ以外の課題としては、学生が日本学卒業後にどのような用途で日本語を活用しているのかについてのデータを集め、今後の参考にしたい。

### 参考文献

- 奥村三菜子 (2010) 「CEFR 実践のための教師研究を考えるー教師のための『CanDo セルフチェック体験』を例に一」『ヨーロッパの日本語教育の現状 CEFR に基づいた日本語教育実践と JF 日本語教育スタンダード活用の可能性 2010年度 CEFR-JF 日本語教育スタンダード研究論集』国際交流基金パリ日本文化会館, 164-179.
- 高橋雅子・平山紫帆 (2014) 「留学生の日本語学習動機の研究に関する現状と課題：ー日本語教育における文献調査よりー」『立教大学ランゲージセンター紀要』31号, 立教大学ランゲージセンター, 95-102.
- 真嶋潤子 (2002) 「ドイツの大学生における日本語学習の動機ー初級学習者の意識調査ー」『平成13年度教育研究学内特別経費プロジェクト「異文化共存時代の外国語教育・学習(3)」研究成果報告書』, (3), 63-78.
- 「日本語教育国・地域別情報2011年度ドイツ、学習目的」国際交流基金ホームページ  
(<https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2011/germany.html#GAKUSHU>)  
(2015年6月アクセス)
- 「日本語教育国・地域別情報2014年度ドイツ、シラバス・ガイドライン」国際交流基金ホームページ

<https://www.jpfr.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2014/germany.html#SYLLABUS> (2015年6月アクセス)

「ヨーロッパにおける日本語教育と Common European Framework of Reference for Languages」

(2005) ヨーロッパ日本語教師会, 国際交流基金.

Kanako Handa-Graf (2015): „Tandemsprachenlernen im Ausland. Eine Untersuchung, basierend auf einer Umfrage unter Japanisch-Studierenden in Deutschland“. *Bochumer Jahrbuch zur Ostasienforschung* 37/2013/2014, 259-270.

„Fakultät für Ostasienwissenschaften: tagesaktueller Bearbeitungsstand der Studierendenzahlen für das Sommersemester 2015/ für das Wintersemester 2015/2016“ ([http://dwh.uv.ruhr-uni-bochum.de/fileadmin/docs/statistik/fakultaet\\_9/Studiengaenge\\_tagesaktuell\\_Fakultaet-9.pdf](http://dwh.uv.ruhr-uni-bochum.de/fileadmin/docs/statistik/fakultaet_9/Studiengaenge_tagesaktuell_Fakultaet-9.pdf))

### (資料：教材の抜粋)

**読み練習** エントリーシートの例を読んでください。

質問 1. 大学で研究しているテーマ、および、その内容について教えてください。

答えの例：

日本と中国の女性の働き方について研究しています。現代は社会の高齢化で女性の社会進出が非常に重要になっています。しかし、日本では出産後の働く女性へのサポートが十分ではありません。一方、中国では女性の社会進出が進んでいて、共働きの夫婦が多いです。このような日中の女性の働き方を比較することによって、これからの日本の女性の働く環境について考えたいと思っています。(200字)

質問 2. 大学時代に力を入れて取り組んだことについて教えてください。

答えの例 1：

私は3年生のときに、学部の就職セミナーの実行委員会のメンバーとして、セミナーの企画と運営を行いました。一番大変だったのは、セミナーで情報を提供してくれる会社を集めることでした。しかし、卒業生の協力もあって、10社以上の会社がセミナーに出席してくれました。(154)

答えの例 2：

私は大学1年のときから、ずっとアカペラサークルに参加しています。グループで一つのハーモニーを作っていくことは本当に楽しい作業です。コンサートの前は毎日、何時間も練習し、大変でしたが、仲間と協力しながら一つのことを達成したことは貴重な経験になりました。(150)

質問 3. あなたは自分のことをどんな人だと思えますか。また、周りの人からどんな人だと言われますか。/あなたの長所(と短所)は何ですか。

答えの例 1：

私は人と話すのが大好きで、他の人からよくいっしょにいると楽しいと言われます。また、やりたいと思ったことは、どんどんチャレンジしてみるほうなので、自分では前向きな性格だと思っています。(93)

答えの例 2：

私の長所は好奇心こうきしんが強いことだと思います。たとえば、本を読んで新しいことを学んだり、旅行をすることが好きです。特技は子供と遊ぶことです。他の人から世話好きせわずだと言われます。(94)

質問4. あなたがやりたい仕事について教えてください。

答えの例：

私は大学で中国語と中国の文化について学んできました。また、中国で半年、企業研修をし、そこで、中国人のビジネスのしかたや考え方についても学びました。ぜひこの知識を仕事に活かしたいと思っています。たとえば、ドイツの会社で中国向けの商品を開発することなどに興味があります。(142)

**練習1** あなたが今、研究しているテーマ、または、興味をもっている研究テーマは何ですか。そのテーマに関する大事なことを日本語で調べておきましょう。

**練習2** 性格や特徴を表す言葉です。意味を調べておいてください。

- (十) まじめひとあ ・ 協調性きょうちょうせいがある ・ 前向きまえむ ・ ポジティブ ・ 明るいしんぼうづよ ・ 辛抱強いしんぼうづよ ・ 人当たりがいい ・ おもしろい ・ 積極的せっきよくてき ・ 社交的しゃこうてき 世話好きせわず  
(十一) 負けず嫌いま ・ 几帳面きちょうめん ・ おとなしい ・ はずかしがり屋や ・ マイペース  
(一) わがまま ・ 人見知りひとみしをする ・ ネガティブ

**練習3** あなたの性格について話してください。日本語でわからない言葉はドイツ語で書いておいてください。

#### 使える表現

1 (どちらかと言うと) — ほうだと思う: eher, tendenziell

基本的に — (ほうだ) と思う: grundsätzlich (eher)

自分では — (ほうだ) と思う: ich finde mich selber (eher)

例: 私は自分では、ポジティブなほうだと思います。

2 —ところもある: manchmal

例: 私は普段はずかしがり屋なほうだと思いますが、その反面、負けず嫌いなところもあります。

3 長所: Stärke, Vorteile/短所: Schwäche, Nachteile

例: 私の長所は辛抱強いことです。何かを始めたら、最後までがんばってやりとげます。

でも、少し几帳面すぎるところがあって、それが短所かもしれません。

4 特技、得意: ichbingutin- /苦手: ichbinschlechtin-

例: 私の特技はマウンテンバイクです。私は料理が得意です。